



# コミュニティ組織型フェアトレードの可能性：フィリピンSPFTC の事例

太田, 和宏 ; 存, 千夏子 ; 伊森, 万名斗 ; 大塚, 美穂 ; 金子, 和洋 ; 土井, 貴仁 ; 中川, 靖大 ; 西林, 明信 ; 青木, 紗和子 ; 小川, かがり ; 頼…

---

## (Citation)

神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 8(2):97-103

## (Issue Date)

2015-03

## (Resource Type)

departmental bulletin paper

## (Version)

Version of Record

## (JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81008830>

## (URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81008830>



## コミュニティ組織型フェアトレードの可能性：フィリピン SPFTC の事例

Community-Organizing Fair Trade :  
A Case of “Southern Partner of Fair Trade Center” (SPFTC) of the Philippines

太田 和宏\* 存 千夏子\*\*

伊森万名斗\*\* 大塚美穂\*\* 金子和洋\*\* 土井貴仁\*\* 中川靖大\*\* 西林明信\*\*  
青木紗和子\*\* 小川かがり\*\* 頼政麻里\*\* 村上遼介\*\* 中村優花\*\* 溝口純司\*\*  
毛利優介\*\*\*

Kazuhiro OTA\* Chikako TAMOTSU\*\*

Manato IMORI\*\* Miho OTSUKA\*\* Kazuhiro KANEKO\*\* Takahito DOI\*\* Yasuhiro NAKAGAWA\*\*  
Akinobu NISHIBAYASHI\*\* Sawako AOKI\*\* Kagari OGAWA\*\* Mari YORIMASA\*\*  
Ryosuke MURAKAMI\*\* Yuka NAKAMURA\*\* Junji MIZOGUCHI\*\* Yusuke MORI\*\*\*

**要約：**本報告はフィリピン、セブ州を拠点に活動する NGO、SPFTC（南のフェアトレードパートナー）によって組織された農民がフェアトレードを通じてどのような変化を経験しているのかを、現地調査から得た情報をもとにまとめたものである。農民らの経済生活はフェアトレードを通じて目に見えるほど大きな改善を見ているとはいえない。しかし一方で、SPFTC のフェアトレードの指導による新しい農法の取得、生活改善実践、さらには土地獲得運動等にかかわることによって、農民らは主体的姿勢と自信を身につけている。これは単に製品の生産と販売という流通の側面だけではなく、住民のおかれた社会状況や彼らの抱える構造的問題への対応をフェアトレードの重要な要素として取り入れている SPFTC の活動形態によるところが大きい。本報告ではこうした組織農民の実態を、経済面、非経済面そして彼らの主観的評価という側面から検討を加えた。

## 1. フェアトレードの課題

フェアトレードが途上国の貧困問題や開発に対する一つのアプローチとして多くの主体によって取り組まれるようになり、一般にも広く知られるようになってきた。貧困者支援を目的に掲げる NGO が取り組むのみならず、大手飲料チェーンや小売大企業等が社会貢献の一環として、あるいは企業イメージ戦略としてフェアトレード製品を扱う状況まで生んでいる。関連製品の普及と、認知度の高まりの中で、フェアトレードが貧困や開発への有効なアプローチであるという認識や、フェアトレードは貧困生産者に貢献するという考えが当然視され、皮肉なことにそれが実際に貧困や開発にどのようなインパクトをいかにもたらしているのかについては逆に顧みられることが少なくなっている。

近年増えてきたフェアトレードに関連する研究は、その仕組み

や先進国における流通状況、そして先進国消費者行動などに焦点を当てたものが大勢を占め、生産国の小生産者、貧困層にどのような変化がもたらされているのかについての報告や研究はほとんどみあたらない<sup>1)</sup>。

そもそもフェアトレードは貧困な小生産者が、旧来の搾取的な生産条件、独占的な流通支配に対抗しながら自主的な生産活動に取り組み、主として先進国の消費者と結びつきながら生産物を販売することで現金収入を上げていくという仕組みである。フェアトレードは実際に市場を通じた製品の取引をするビジネスとしての側面を強く持つ一方で、小生産者たちの置かれた社会状況、生産・流通条件との対抗とその再構築をより大きな課題として含み持っている。小生産者たちの組み込まれた社会構造自体に原因があるがゆえに貧困や開発上の問題が生じているとするならば、フェ

\* 神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授

\*\* 神戸大学発達科学部卒業

\*\*\* 神戸大学経済学部卒業

(2014年9月30日 受付)  
(2014年10月15日 受理)

アトレードの掲げる目的を達成するにはむしろ後者の方が重要な問題領域として存在しているといえるだろう。ところが実践においてもまた研究においてもそうした側面に焦点をあてて探求、追究している例は多くはない。

本稿ではこうした状況を前提として、フィリピンにてフェアトレード活動にとりくむ NGO「南のフェアトレードパートナー」(Southern Partner of Fair Trade Center、以下 SPFTC と略す)とそれによって組織された生産者らの実態を事例として、フェアトレード活動の可能性について検討していく。SPFTC を取り上げる理由は、それがフェアトレード活動団体でありながらも、生産と販売のみに終始するのではなく、生産者コミュニティでの組織活動や、小生産者らの抱える社会的課題にも積極的に取り組むことを重視し、むしろそうした多角的な活動を含みこんだ活動をこそフェアトレードとして位置づけて実践している点で、特徴的だからである。

SPFTC は、セブ州、ボホール州、東ネグロス州をふくむ中央ヴィサヤス地方の農民を組織する団体「中部ヴィサヤス農民開発センター」(Central Visayas Farmer's Development Center: FARDEC) の活動から派生し 1996 年に設立された。FARDEC は多くの農民が抱える土地所有問題への取り組み、つまり自耕作地の獲得と持続可能な農業の追求を柱として活動しており、SPFTC はそのヴィジョンを現在でも共有している。むしろ SPFTC は土地獲得や農法改善を大きな目標としながら、農民らの生活基盤を安定させることを重視して、販売活動を展開する組織だといえる。セブの特産であるマンゴーを使いドライフルーツに加工し販売することから始まり、現在ではココナツ関連製品、カラマンシー（ゆず系柑橘類）ジュース、ターメリック（うこん）、モリンガ等の農産物を多角的に加工生産するほか、アクセサリー、リサイクルバッグ等を生産する諸団体と連携して工芸品も扱う。製品はセブ市内に構えられた店舗での販売と、NGO、小売業者を通じて主として先進国で販売される。現在、日本、韓国、イタリアが輸出の大半を占めている。販売先の多角化にも努力して、スペイン、カナダ、エストニアなどへの取引の拡大に取り組んでいる<sup>2)</sup>。

SPFTC が組織するのはセブ州のアロギンサン Aloguinsan、カルカル Carcar、カルメン Carmen、グバ Guba、シブング Sibunga、ミングラニア Minglania、トレド Toledo といったミニシパリティの約 10 の農民組織<sup>3)</sup>である。農民組織のほかに、加工工場で働く労働者が居住する都市スラム地域の組織化にも関与する。農民からはマンゴーやココナツなどの農産物を買収するだけでなく、品質の向上や有機農法の普及にも積極的に取り組んでいる。さらに農民らが抱える地主からの土地獲得の課題にも、他の農民団体や弁護士らと連携をはかりつつ積極的な支援を行っている。

本稿は主として 2012 年に SPFTC の組織する 8 つの農民組織を訪れ、66 人の住民からえた情報をもとにした研究報告である<sup>4)</sup>。SPFTC の取り組みと、そこに組織された生産者らの実態を叙述することによって、単なる製品取引引きビジネスに還元されることのないフェアトレードの在り方についての考察の一助とすることを目的としている。次章ではフェアトレードを通じて家計面にどのような変化がもたらされたのかを検討する。3 章では非経済的側面に着目し、特に農民の生活姿勢や意欲にいかなる変化が生

じているのかを見ていく。4 章ではフェアトレード活動全体を通じて、組織された住民らがそれをどのように捉え評価しているのかを概観していく。

## 2. 生産者の家計へのインパクト

フェアトレードの主要な目的は生産者の経済収入を上げることである。ここではフェアトレードに関わる農民の家計がどのような変化を経験しているのかを検討する。まず組織された農民の経済水準についてみておこう。図 1 は調査対象者の家族あたりの収入月額の分布を示している。「無回答」を除けば、一人あたり 500 ～ 999 ペソが最も多く、また回答者の大半は 1500 ペソ以下である。政府統計によるとセブ州における貧困線水準は年間一人当たり 18,855 ペソと設定されている。ひと月あたりに換算するとひとり 1,571.25 ペソとなる<sup>5)</sup>。これらの水準と照らし合わせて、図 1 の組織住民の経済水準を比較すると、ほとんどが貧困線以下の家庭であることがわかる<sup>6)</sup>。

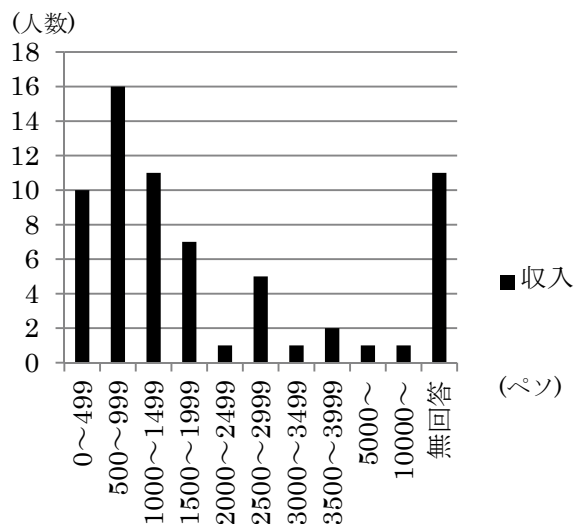


図 1 一人当たり月収の分布  
出所：2012 年調査による

調査農家は、マンゴー、ココナツ、とうもろこし、野菜などを栽培している。近年では SPFTC が加工するターメリック、モリンガを庭先に植えることも奨励しているため、それらを栽培している農家も多い。農家は、以前は生産物を町の市場で販売したり、あるいは近隣住民に売ったりする形で現金化していた。今回の調査対象となった世帯の多くがその収入をココナツの生産と販売に負っている。ココナツは 1970 年代までフィリピンの重要輸出品であったが、近年では合成洗剤等の普及によって、一時のような産業の重要性は失われた。とはいえココナツの果肉を乾燥させたコブラは国際商品となっているため、価格の変動が激しく、生産農家は直接その影響を受ける。そのためココナツ生産者は農家の中でも経済的にはもっとも苦しいグループだといえる。実際に 2009 年の価格暴落が家計を苦しめたことを多くの農家が述べていた。2012 年 2 月のコブラの 1 トン当たり国際価格は 1,503 米ドルであったのに対して、2009 年 3 月には 416 米ドルであった<sup>7)</sup>。このように大きく変動する価格の下で生産農家の収入は安定しない。さらに流通過程の厳しい条件も農家にとっては不利に働く。一般マーケットや通常の仲介業者は果実の形状や色の良くないものは買い取ら

ない。それに対して、SPFTC は買取り単価は一般仲介業者とほぼ同じであるものの、形状・色にかかわらずすべてを購入する。農家からすれば販売できるココナツの絶対量が増えることになる。さらに、オクラ等の野菜、モリンガ、ターメリックなど従来栽培していなかった作物をも作れば SPFTC が買い取ってくれるため増収につながっている。実際にどれほどの額が増えたのかという正確な数値を当事者らは正確に把握をしていない。生活感覚から、5%、15%、20%、25%増えたという声がよく聞かれた。中には50%増えたという農家もあったが、ほとんどが25%以下の数値をあげている。

ここからわかるのは、フェアトレードに関わって多くの農家の収入は上がったものの、増加の割合はさほど大きいものではなく、家計を劇的に改善するような結果を得ているわけではないということである。SPFTC も経営体としては大きな組織とは言えず、農家から買い取る量にも限界がある。そうした事情も生産者の家計が劇的には伸びない理由だといえるだろう。

生産物の直接売買による家計支援だけでなく、一般にフェアトレードには「ソーシャルプレミアム」と称する経済的支援が組み込まれている。売り上げの一部が生産組織やコミュニティに還元される。個人に分配されるのではなく、コミュニティ構成員共通の目的やサービスのために使途されるというのが通例である。例えば、コミュニティの共同施設を作る、治水工事に充てる等々である。SPFTC ではこのソーシャルプレミアムを「コミュニティ基金」Community Fund と称して売り上げの1%を充てている。その使途は各組織構成員の判断に委ねている。組織構成員は定期ミーティングでその使途を議論し、SPFTC 役員会による承認を受けて使うことができる。調査をした農村では野菜や果物の苗を買って構成員に配布したり、共用の医薬品の購入に充てられていた。「このコミュニティ基金のおかげで病気の際に薬を手に入れることができるようになった」と答えた農家も少なくない。生産者にとってみると、苗や薬の入手に対して出費をする必要がないという点で、経済的な便益を享受しているといえるだろう。

さらに SPFTC のフェアトレード活動は、農産物の売買だけでなく、セミナーやトレーニング等を通じて、農民に対する生産上、生活上の助言と指導を頻繁に行う。このことが結果として家計を助けることにもつながっている。

農法の改善では、野鼠による被害を避けるためココナツの木に幅30センチほどの金属板を巻き付ける方法を普及している。金属に野鼠の爪が立たず、果実の実る先端部まで登れないのである。単純な方法であるにも拘らず、野鼠にココナツの実を落とされる損害を防ぐことができ大きな効果を上げている。農家にとってみれば販売しうるココナツの実が増え、増収につながる。近年では有機農法の普及を積極的に推進している。従来の農法では化学肥料、農薬、人工授粉剤を大量に使用し、それらへの経済的出費がかさむだけでなく、生産者の健康にも甚大な被害を与えてきた。皮膚病、呼吸器系疾患、頭痛などを引き起こしてきた。そのため SPFTC は農家に有機農法を指導し、人体にも土壌や作物にも良い環境での生産の向上をめざしている。家畜糞、植物、枯葉、卵殻、酢など無料あるいは廉価で入手できる材料を用いて有機肥料、農薬、授粉剤を作り使用することを奨励している。他の農民団体

や政府農業省 Department of Agriculture の技術専門官からのアドバイスを受けながら進めている。フィリピンでは、有機農産物の市場は一部の階層間を除いて未だ広く成立していないため、化学農薬を使用した製品と差別化をはかり高く販売することは現段階では難しい。しかし、フェアトレードは主として先進国市場を前提としているため、先進国の成熟した消費者意識にあわせていくために必要な対応である。また将来的にはフィリピンにおいても有機農産物の需要が高まることが予想され、それへの準備としても有効な取り組みといえるだろう。農家にとってみれば、従来化学農薬・肥料等に出費していた経費を大幅に抑えることができたことと、健康被害を激減させられたことの安心感は大きい。体調不良によって農作業に出られないことなどもなくなり、生産性の向上にも寄与しているといえる。

SPFTC は有機農法の普及だけでなく、フェアトレード製品として販売しうる農産物の種類を増やすこと、つまり多角化を奨励している。例えば、各農家にターメリックやモリンガ、カラマンシー等の栽培を奨励する。農家の庭先でさほどの手間をかけることなく収穫しうるものであり、それらを現金収入につなげようと試みている。

こうした SPFTC の農業指導を通じて、多くの農家が新しい取り組み、特に有機農法の導入によってもたらされる変化を実感し、生産への意欲を向上させている。健康面の改善も多くの農家が言及した点である。

SPFTC は生産活動にだけでなく、生活に関する一定の助言をも農家に対して与えている。多くの農家は経済的余裕がなく、計画的に家計を運営しているケースは少ない。ほとんどの農家が、親戚、インフォーマル金融、高利貸などから何らかの形で借金をしている。SPFTC はセミナー等の場で増加した収入を使い切らず、生活の安定化のために貯金をすることを奨励している。こうした指導によって貯金をするようになったという農家も少なくない。貯金することによってたとえ収入が同じであっても、生活に少しのゆとりをもつことができ、さらに借金をしないですむ生活を目指すことができるのである。

以上のように、SPFTC のフェアトレードを通じて、農家は製品販売で限定的ながら収入の向上とコミュニティ基金からの補助による経済的恩恵を得ている。加えて、新しい農法の導入や生活規律の改変によって出費をおさえることができ、顕著とまではいえないまでも全体として経済生活の向上を実現しているといえる。

以下に面接調査をした農家の実例をいくつか挙げる。

#### Grace (女性) NAMACAVIC 所属

夫が農業をしており、ココナツ、バナナ、根菜（紅芋、キャッサバ、サツマイモなど）を育てている。夫の農業を手伝うかわら、できた農作物を販売するお店の経営などにも携わっている。バナナやココナツを町へ運搬することは金銭的にも厳しく、SPFTC に毎月約400ペソ分を売り、残りは自分の店で販売している。農産物は自分たちでマーケットにもっていくのが難しいので、村まで来てくれる SPFTC のような団体がいてくれるととても助かる。SPFTC からはセミナーを通して、フェアトレードでの販売や農法についてのアドバイスを受けている。定期的に、お金の使い方

など生活に関するセミナーも開かれる。農法指導やセミナーのおかげで作る作物の種類も増えた。有機農法自体が仕事に対するモチベーション維持につながっている。今は仕事を楽しんでいる。

#### Rolly (男性) GUFA 所属

マンゴーと野菜を育てている。マンゴーの木を20本持っており、現在は SPFTC のトレーニングにより、従来の生産方法と有機農法を組み合わせながら進めている。野菜を有機農法に切り替えることはそれほど難しいことではないが、マンゴーの場合は木も大きく果実の数も多いため農法の切り替えは難しく時間がかかる。しかし今は SPFTC の指導と支援があるため、ためらいなく有機農法に取り組んでいる。化学肥料を使わなくなって、体調が良くなったように思う。マンゴーを有機農法で生産することは難しく大変ではあるが、これが長期的に見ると良い方法であることを理解している。今後は従来作物への農法改善だけでなく、農産物の加工などにも取り組んでいきたい。

### 3. 自立主体の形成

SPFTC との関わりの中で生産者に変化・効果が見られたのは経済面だけではない。十分な教育を受けておらず、また自らが置かれている生活環境に対する主導権も持たない農民にとっては、SPFTC との関係を通じて知識を獲得することや生活条件を改善するための主体的能動的態度を身につけていくことは大きな意味がある。本章では SPFTC の活動の一環として行われている、土地問題に対する支援や、セミナーの開催などの非経済的活動に注目してみよう。

自分の土地を持たない農家は地主との関係の中で生産、生活をし続けなければならない。それゆえ土地所有の有無や地主との関係は農民にとって死活的な問題である。小作人の場合、最も重要なのは小作料の納入である。包括的農地改革法（共和国法第6657号）によれば小作料の上限は収穫の25%である。そもそも農地改革法によれば、地主は5haの自耕作地所有が上限とされ、それを越えた土地は小作人に分配（有償）することが義務付けられている。しかし小作料（率）の設定も土地の分配も実際には当事者間の力関係に任せられ、法律が遵守されていないことも多い。

今回調査したシブング地区のナマラシ Namalasi という組織ではそうした土地問題を抱えている。近年 SPFTC の支援を受ける形で大きな展開を見せている。SPFTC がナマラシと関係を持ち始めたのは2010年以降である。それ以前からこの地区では地主と土地をめぐる係争があり、農民らはナマラシを結成していた。元来この地区における農民と地主との関係は良好であり、小作人も地主に対し敬意を持ち、いわゆるバトロン・クライアント関係（温情的互惠関係）が成立していた。ところが前地主が亡くなりその娘婿が後継者（現地主）になると、それまでの農民に対する温情的関係は解消され、相互の信頼関係が悪化してしまった。以来、農民は組織を作って団結し小作料支払い拒否運動を展開し、一方、地主はこの事案を裁判に持ち込んだり、警察に働きかけて住民を別件で逮捕するなどのハラスメント行為を行うなど、ますます関係が複雑化してしまったのである。SPFTC は小作人である住民に土地所有の権利があると判断し、ナマラシに対して地主に対抗

するための運動上のアドバイスを与えたり、法的対応に関して弁護士と協力しながら助言を行ってきた。

こうした持続的な取り組みと運動の結果、地主は現在フィリピン国外に居を移してしまったため、土地問題は棚上げ状態にある。地主は、小作人が一方的に設定する小作料を受け取ることは、自ら譲歩することになるとして、現在は小作料の受け取りを拒否している。土地所有問題が解決したわけではないものの、小作人にとっては実質的に小作料を免除されている状況にある。ここに至るまでの SPFTC の寄与と支援は小さくなかった。

農民が日々直面しているのは土地所有問題だけではない。自然災害への対応、コミュニティ運営、資金問題等さまざまな課題を抱えている。SPFTC のスタッフがそうした数々の問題に、農民と共に向き合い、助言を与えたりともに解決の方向をさぐることによって、彼らの大きな精神的支えとなっている。インタビューでは多くの農家が「自分たちを支援してくれる存在としての SPFTC」について語った。権力も財力もない農民にとって、地主と闘うということは生活のすべてを賭けた大きな試練である。そこに SPFTC という第三者が後ろ盾となってくれることで農民は恐れず一歩進むことができる。自ら問題に立ち向かおうとする姿勢、また問題を自ら解決していこうとする態度を身につけていくことが彼らの当事者意識だけでなく、生活や生活条件を改善しようとする意欲を高めているといえるだろう。

定期的に各コミュニティで開催される SPFTC によるセミナーが農民の意識形成や意欲の向上に寄与している点も見逃せない。セミナーでは主に有機農法の指導、栽培方法の改善、作物の害虫対策、作物の多角化また小商売に関するアドバイスなどを行っている。参加農民はセミナーを通じて、農業生産に関する知識を獲得するだけでなく、自分自身の仕事がどのように他者や市場社会とつながっているかといった社会関係をも学びつつある。

以下にこれらに関連した農民らの発言を列挙する。

#### Merlyn (女性) SRFA 所属

家族で農業をしており、主にとうもろこし、果物、野菜を生産している。SPFTC にはマンゴーとココナツを売っている。作物の苗も（コミュニティ基金を通じて）SPFTC から与えられた。SRFA は土地問題を解決する目的で結成された団体であり、SPFTC から支援をうけている。まだ地主との問題は解決には至っていないが、SPFTC がいてくれることで自分たちには支援してくれている人がいるのだと心強く思える。以前は地主に対して意見を述べるのも怖いと思ったが、今では地主に立ち向かうことに対する恐怖はなくなった。

#### Virgie (女性) SRFA 所属

家族で農業をしており、マンゴーやココナツなどの果物や野菜を生産している。SPFTC には収穫された野菜の約半分を買い取ってもらっており、またマンゴーも少しではあるが売っている。SRFA に加入後しばらくは毎日のように土地関連の抗議運動を行い、時には300人もの警官が押し寄せてきたこともあった。現在まだ土地問題が解決していないので、本当の意味で幸せとは言えない。でも闘争に対しては違った見方ができるようになった。SPFTC

と関わるようになってからは一人ではないと思えるようになった。

#### Dionisio（男性） GBP-Puest 所属

農業と籐細工を兼業でおこなっている。農業ではマンゴーを育てているが、今は有機栽培に移行途中のため収穫が減って、厳しい。生産するマンゴーはすべて SPFTC に販売し、1 kg あたり 13 ペソほど市場価格よりも高く買ってくれるため収入も増えてきている。有機農法について知ることができて嬉しく思っている。害虫対策や農薬の人体被害についてもたくさん SPFTC に教わった。農業について知ることによって健康への影響も考えるようになった。

#### 4. 満足度の変容

本章では、フェアトレードに関わって見られた経済上、非経済上みられた変化を踏まえたうえで、農民が全体としてそれどのように捉えているのかを検討する。調査ではフェアトレードに参加した後の主観的な評価を、「生活における満足度」と「仕事における満足度」と分けて質問をした。それぞれ満足である、やや満足である、満足でない、の3段階評価による回答を得た。回答者の満足度合いは、フェアトレードに関わり始めた年によって整理をした。

まず、生活における満足度を見てみよう（表1）。全体として生活に対して満足している者が多く有効回答数51のうち33人が「満足」と答えている。一方で「やや満足」「満足でない」と回答したもの、つまり生活レベルに満足しきれない回答者も18名いる。その分布はフェアトレード活動への参加年数とはほぼ関係がない。つまりフェアトレードに参加して間もないものが、満足度が低いわけではなく、逆に長く関わっているものが必ずしも生活状況に十分満足しているわけでもないことを物語っている。生活への満足度は、経済収入が十分あるかどうか大きな要素となる。参加経年により農家の満足度が必ずしもあがっていないという事実は、フェアトレードによって生活水準が変わるほどの収入の増加もたらされていないことを意味している。フェアトレードに参加することで収入は上がり、経済生活の向上に寄与していることは確かであるが、その日暮らしの生活を続ける人々、特に貧困ライン以下の農家にとっては現状のフェアトレードによる収入増加だけでは経済の大幅な改善にはつながらず、生活満足度を上げるには至っていないことを示している。

表1 生活に対する満足度（人数）

|      | 満 足 | やや満足 | 満足でない |
|------|-----|------|-------|
| 1996 | 2   | 0    | 0     |
| 1999 | 1   | 0    | 0     |
| 2000 | 0   | 1    | 0     |
| 2003 | 2   | 5    | 0     |
| 2005 | 9   | 2    | 1     |
| 2006 | 0   | 1    | 0     |
| 2007 | 4   | 0    | 0     |
| 2008 | 1   | 1    | 0     |
| 2009 | 6   | 1    | 0     |
| 2010 | 7   | 3    | 1     |
| 2012 | 1   | 2    | 0     |
| 計    | 33  | 16   | 2     |

出所：2012年現地調査による

次に、仕事に関する満足度をみてみよう（表2）。仕事に関する満足とは、自分が行っている生産活動の内容、つまり農業生産や販売活動への取り組みやあり方に対する評価を問うている。有効回答のうち44人が「満足」と答え、7人が「やや満足」としている。生活に対する満足の数よりも、仕事への満足を示すものが多いという事実は、必ずしも収入面では満足できなくとも自分が携わる経済活動、生産活動に関しては納得している、あるいは意欲的に取り組んでいると読み取ることができる。さらに2007年以前からフェアトレードに関わっているものはすべて「満足」と答えている状況から、SPFTC のフェアトレードに関わる年月や経験の長さが「満足」の数に寄与していると考えられる。

これは特に、有機農法や農産物の多角化など SPFTC からの生産上のアドバイスを受けて、品質改善や生産性の向上を実現していることが、生産活動そのものへの意欲を高めていることを示している。さらに、土地所有に対する運動を通じて、自らの所有地を獲得しうる可能性が高くなったことも、生産に対する意欲を高めていると言えるだろう。

表2 仕事に対する満足度

|      | 満 足 | やや満足 | 満足でない |
|------|-----|------|-------|
| 1996 | 2   | 0    | 0     |
| 1999 | 1   | 0    | 0     |
| 2000 | 1   | 0    | 0     |
| 2003 | 7   | 0    | 0     |
| 2005 | 12  | 0    | 0     |
| 2006 | 1   | 0    | 0     |
| 2007 | 4   | 0    | 0     |
| 2008 | 1   | 1    | 0     |
| 2009 | 5   | 1    | 0     |
| 2010 | 7   | 5    | 1     |
| 2012 | 3   | 0    | 0     |
| 計    | 44  | 7    | 1     |

出所：2012年現地調査による

仕事上の満足度についてはさらに注目すべき点がある。それは SPFTC との関わりの中で新しい視野を得つつ自ら生活を改善してきた体験から得た自信を他者と共有したり、多くの人々に広げたいという意識を少なくない人々が持っていることである。「ほかの農家にも新しい農法を普及したい」、「地域の困っている人を助けたい」、「多くの貧困なフィリピン人にも生活改善に取り組んでほしい」といった発言にみられるように、自らの体験を、似たような境遇にある隣人やあるいは未だ知らない人々への連帯の意識にまで敷衍している点は興味深い。

フェアトレードに参加することで、住民らが経済効果以上に心理的な満足感や充実感を得ていることが伺われる。さらには NGO と関わることによって仕事に対する意識に変化が生じていることもわかる。これは献身的に働く NGO スタッフの考え方や行動に影響されるものであると考えられる。

一方で SPFTC に対する「依存」が生じていることも指摘されなければならない。収入向上、生活改善の機会を与えられたことに対する肯定的評価と同時に、さらなる農産物の買取りや活動の拡大を要望する声が聞かれることに加えて、必ずしも SPFTC がプログラムとして取り組んでいるわけではない雇用機会の提供や奨学金の給付、医療サービスの充実などの支援を求める人も見ら

れる。SPFTC と関わることで自分自身が主体的に状況の改善に乗り出すというよりも、将来的にも生活改善のための更なる支援を期待する声も多く聞かれるのである。フェアトレードに関わることで必ずしも自主的な姿勢が単線的に形成されるものではないことを示唆している。

また SPFTC との付き合いが深まれば深まるほど SPFTC に対する憧れを抱くものもある。「SPFTC スタッフのように人に働きかけられるようになりたい」「自分の子どもを SPFTC のワーカーにしたい」といった言葉も少なからず聞かれた。

以下、今回の調査対象者である農民の実際の声を紹介する。

#### Lidya (女性) NAMACAVIC 所属

小規模農業を営んでおり、ココナツとモリンガを有機農法で生産している。農業だけでは生活が厳しいので、サリサリストア（小規模小売店）の経営など農業外の仕事もしている。SPFTC と関わりができたことで、販売できる生産物が増え、収入の増加につながっている。もっと働きたいので SPFTC からさらに仕事をもらいたい。SPFTC と関われることがとても幸せ。なぜなら、いろんな人に会えるから。海外の人と話す機会を得ることもでき、英語の勉強のモチベーションにもなる。今後はフェアトレードに参加していない他の農家の人々も助けてあげたい。そのために SPFTC にはもっと大きくなってほしい。

#### Nong Ben (男性) MANAGSAMA 所属

ココナツ、とうもろこしを主として生産している。SPFTC のセミナーを通じて有機農法や害虫対策、ココナツの脱穀法などの指導を受けている。SPFTC のスタッフとは平均して月に 2 度のミーティングを行っている。フェアトレードに参加し、コミュニティ基金による医療サポートなどを受けられるようになったが、まだコミュニティのすべての家族に対応できるほどではないため、収穫を増やして基金を大きくしたい。またそのために SPFTC にはさらに商品の改善や有機農法技術などでサポートしてもらいたい。農家として作物が高く売れた時が一番うれしい。将来はもっと多くの作物を作って、家族だけでなく、化学農薬で健康被害を受ける他のフィリピン人の力になりたい。

#### Andrea (女性) KMA 所属

バナナ、とうもろこし、ココナツ、キャッサバを育てている。すべての作物は SPFTC の指導のもと有機農法で栽培しており、その他にも収穫方法や木の維持法などのアドバイスも受けている。土地問題は未だに解決しておらず SPFTC のサポートを受けながら地主と係争中である。SPFTC から学んだ農法を孫にも伝授していきたいと考えている。SPFTC と関わることで人とのつながりが増えたことが仕事のモチベーションの向上につながっている。SPFTCのおかげで生活もよくなり、家族のために必要なものが買えるようになった。孫に学校を卒業させてあげたいので SPFTC との関係は死ぬまで続けていきたい。

#### 5. おわりに

これまで SPFTC によるフェアトレードに活動に関わった農民

の生活や意識にどのような変化が生まれてきたかを見てきた。農家は家計上の改善を一定程度見ているものの、それは生活水準を大きく変えるものとはなっていない。その要因は専ら SPFTC 側に農産物の十分な購買能力がないこと、また大量の農産物を加工した後の販路を確立していないことにある。しかし、フェアトレードに組み込まれたソーシャルプレミアムによるサービス提供や農法指導による隠された経済的貢献が、農民にとってみると大きな意味を持っている点は見逃されてはならない。

さらに今回の調査から明らかになった点は、経済的便益と並んで、フェアトレード活動を通じ農民が生活や環境改善に対する意欲を高め、主体的な姿勢を獲得してきている点である。

これらの非経済的な効果は、健康や環境と両立する形でより質の高い農産物を生産し、それを有利な条件で購入してもらえるとこのフェアトレード活動の基本的な取引によってもたらされている。それと並んで、あるいはそれ以上に農法改善・生活相談、さらには土地獲得闘争への支援等に SPFTC が積極的に関与することでもたらされた側面も大きい。住民やコミュニティに密着した活動の在り方が生んだ効果である。

このように貧困や開発上の構造的問題を住民やコミュニティの目線に立って取り組む SPFTC の活動事例は、製品生産と販売のみが注目されがちなフェアトレードへの一般的視点に対して、新しい視覚を提供しているといえるだろう。

（謝辞）本報告は神戸大学グローバル教育支援基金の助成を得て行われた2012年11月のフィリピン現地調査による成果の一部である。いただいた支援に対して感謝申し上げたい。

#### 注

- 1) 邦文献としては以下を参照。アレックス・ニコルズ・シャーロット・オパル『フェアトレード：倫理的な消費が世界を変える』岩波書店2009年、辻村英之『おいしいコーヒーの経済論：「キリマンジャロ」の苦い現実』太田出版2009年、渡辺龍也『フェアトレード学：私たちが創る新経済秩序』新評論2010年、佐藤寛編『フェアトレードを学ぶ人のために』世界思想社2011年。また実践的な報告として、以下を参照。長尾弥生編著『フェアトレードの時代：顔と暮らしの見えるこれからの国際貿易を目指して』日本生活協同組合連合会2008年、子島進、五十嵐理奈、小早川裕子編著『館林発フェアトレード：地域から発信する国際協力』上毛新聞社2010年。
- 2) SPFTC 事務局長 Gigi Labadores 氏へのインタビュー。2014年8月セブにて。
- 3) いわゆる草の根住民組織 Peoples Organization (PO) である。
- 4) 調査を行った農民組織は GBP-Puest, GUFA, KMA, SRFA, NAMALASI, NAMABA, NAMACAVIC, NAMAGSAMA である。
- 5) National Statistical Coordination Board, *2012 Full Year Official Poverty Statistics, Republic of the Philippines* より。
- 6) 家計水準と教育レベルの間には相関関係があると一般に言われる。今回の調査対象者の最終学歴が以下であった。小学校

以下56%（うち卒業20%）、高等学校以下39%（うち卒業18%）、  
大学卒 3 %であった。

7) ISTA Mieke GMBH より。調査を行った2012年11月の価格は  
577米ドルであった。